



日本の宝島“天草”の創造を目ざして！

市政だより

AMAKUSA
天草



「天草での海水浴 “楽しいよ！”」

天草の夏といえば、何といても“海”。市内には、環境省の「日本の快水浴場百選」に選ばれた“四郎ヶ浜ビーチ”（有明町）や“白鶴浜海水浴場”（天草町）など、たくさんの海水浴場があり、毎年多くの海水浴客でにぎわいます。夏本番。皆さんも、ご家族や友だちといっしょに出かけてみませんか？

（写真は7月13日に「四郎ヶ浜ビーチ」で撮影）

主な内容

- 都市住民に天草での田舎暮らしを・・・2～5
- 議会報告・・・・・・・・・・・・・・6～7
- 宝島の話題・・・・・・・・・・・・・・8～11
- みんなの広場・・・・・・・・・・・・・・12～15

平成20年

8

1

No.56

都市住民に 天草での田舎暮らしを

～空き家情報バンク
制度を創設～



「天草に住みたいのですが…」という市への問い合わせが、最近急増しています。

これは、団塊の世代の方々の退職が始まり、「退職後は田舎でゆつくり、のんびり過したい」といったふるさと回帰への関心の高まりや、都会での便利な生活から田舎での心豊かな生活を望む若い世代の方々の増加などによるものです。

今回は、こうした現状を踏まえて市が取り組んでいる「天草グリーンライフコミュニティ事業」の取組状況や、新たに創設した「空き家情報バンク制度」などについて紹介します。

グリーンライフ コミュニティ事業の取組状況

市では、団塊の世代の方々や、都会に住んでいる人たちが出身地などに戻って生活するU・J・Iターンを望む方々を対象に「都市と農山漁村の共生と対流」を進める『天草グリーンライフコミュニティ事業』に取り組んでいます。

この事業は、増大する遊休農地を活用して、都市住民に天草の海・山・郷の豊かな自然の恵みを生かした天草ならではの田舎暮らしを提供しようというものです。ま

た、天草への定住や、都市と天草の両方に居住地を持つ二地域居住などにつなげることで、過疎化・高齢化が進む集落（地域）の活性化を図ることを目的としています。

事業を進めるにあたっては、市と特定非営利活動法人グリーンライフあまくさ（西山忠彦・理事長）が協働で実施。民間のアイデアなどを積極的に取り入れながら事業展開を図っており、現在は下浦町金焼地区をモデル地区として選

定し、各種の事業に取り組んでいます。実施している事業は次のとおりです。

【啓発活動】

◆各種イベントなどでのPR活動
ふるさと回帰フェア（東京・大阪）や天草フェア（福岡）に参加し、都市住民に天草での定住をPR。

◆天草で暮らそう！

体験ツアーの実施
平成18年11月にモデル地区で第1回を開催。その後、春夏秋冬を基本にこれまで7回実施。関東や関西、福岡、熊本などから延べ139人の都市住民が参加。



◆熊本・福岡都市圏での シンポジウムの開催

平成18年度は熊本市内で、同19年度は福岡市内で、天草での定住や二地域居住をテーマにしたシンポジウムを開催。

【遊休農地の活用】

◆遊休農地の復元（都市住民の農業体験の場として活用）
モデル地区の農地約0・83haを復元。カライモやジャガイモ、菜

自然豊かな田舎に住みたい！ ～都市住民の声～

これまで実施してきた「天草で暮らそう！体験ツアー」の参加者の中に、天草への移住を本格的に考えている人がいます。また、都市住民から移住相談があった件数が、昨年4月から約55件に上るなど、天草への移住希望者が年々増えてきている状況にあり、市でも、その受入体制の充実を図っています。

都市住民が天草への定住・二地域居住を希望する理由や、田舎暮らしに対する要望などを紹介します。

の花などの栽培と収穫を体験。

【起業化支援】

◆食を生かした起業支援（薬膳レストランと特産品加工所の開設）
モデル地区に、地元住民による起業として、地元産の旬の食材を使って料理を提供するふるさと薬膳レストランを開設予定。また、かんきつ類を利用した特産品の加工施設を整備予定。

移住相談者の声

- ・天草には随分前に行ったことがある。中途半端ではなく、納得して移り住みたいし、空き家があったらぜひ借りたい。
（奈良県在住・夫婦と
小学1年の子ども1人）
- ・天草は以前訪れたときに気に入ったところ。移住して民宿をしたい。
（兵庫県在住・夫婦と子ども1人）
- ・定年後に移住を考えている。天草は候補地の一つで、まだ移住すると確定はしていない。情報が欲しい。
（茨城県在住・夫婦）
- ・出身は阿蘇。定年後、田舎に帰ろうと思うが、天草はいいところなので、天草に行きたいと考えている。空き家があれば紹介してほしい。
（大阪府在住・夫婦）
- ・以前、天草を旅行してとても気に入った。現在、コンピュータ関係の仕事をしているが、天草に移住して、できればいろんな仕事をしてみたい。
（兵庫県在住・夫婦）

体験ツアー 参加者の感想

- ・体験ツアーに参加した子どもが生き生きとしていた。
- ・1週間もいると、すがすがしい気持ちになると思う。永住に向けた機会を見つけていきたい。
- ・中・長期的に住める施設があったら、しばらく住んでみたい。
- ・体験ではなく、実践として農業を行ってみたい。
- ・モデル地区周辺に空き家があれば紹介してほしい。

空き家情報バンクを創設！

く空き家の貸出・売却ができる人は登録をく

**空き家が
増えています**

現在、農山漁村の多くの地域で、過疎化などによる人口の減少に伴い、「空き家」や「遊休農地」が増加しています。

特に古い空き家は、長い期間使用しないでいると老朽化が進み、危険が生じるばかりか、いずれ再生不能になってしまいます。

本市においても例外ではなく、このまま過疎化や若者の流出が続くと、空き家などがさらに増加するばかりでなく、小さな集落では集落そのものが存続できなくなる状態に陥ってしまうおそれがあります。

**空き家の有効利用で
地域の活性化を**

一方、視点を変えると、田舎暮

らしを望む都市住民にとっては、空き家は最も有効な居住施設となります。特に、天草への移住を希望する人は、アパートなどが立ち並ぶ市街地よりも、周りを農地に囲まれた一戸建てに住んでみたいと望んでいる人が多いようです。

**■都市住民が
空き家を利用できれば：**

天草への移住を希望する都市住



民に空き家を貸し出すことができれば、次のようなメリットがあると考えられます。

- ・空き家の傷みを遅らせることができる。
- ・地域内の人口が増え、活気が出てくる。
- ・移住してきた都市住民との交流により、新たな情報や文化などに触れることができる可能性がある。

**■地域の活性化に
つなげるために：**

市では、今後使用する見込みのない空き家があれば、その空き家に都市住民の移住を勧め、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

空き家をお持ちの皆さんには、さまざまな事情があることから貸し出しが難しいと思いますが、ご理解とご協力をお願いします。

都市住民を受け入れる地域の皆さんの不安を解消するために

都市住民が移住することで、その人たちを受け入れる地域の皆さんから、「どんな人が来るのか心配」「地域の活動に積極的に参加してくれるのか。地域にとって、面倒なことにならないか」「これまでの地域のつながりを壊したくない」などといった不安の声を聞き取ることがあります。

このような受け入れ地域側の不安を解消するため、市を通して紹介する都市住民（定住希望者）には、必ず地域へ足を運んでもらうように呼びかけています。また、行政区長に紹介したり、地区の寄り合いなどに出席していただいたりして、地域住民とのコミュニケーションを図っていただくようにしています。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

**空き家情報バンクに
登録をお願いします**

市では、市内にある「空き家」を、地域に活気を呼び戻すための魅力ある「宝」としてとらえ、移住・定住を希望する都市住民（天草島外在住の人）にその情報を提供する

「空き家情報バンク制度」を創設しました（左イメージ図参照）。

空き家を所有している人で、都市住民に貸し出すことが可能な人は、空き家情報バンクに登録をお願いします。

なお、市では昨年、市内の空き家の状況について調査を実施しました。調査は①すぐに住める家②

簡単な改修で住める家③大きな改修が必要な家に分類して行っています（※調査は外観での確認です）。

その結果、①すぐに住める家は約170軒、また、②簡単な改修で住める家も約140軒ありました。市としては、これらの空き家を有効に活用させていただけないかと考えています。

**■近所の空き家情報も
お待ちしています**

市民の皆さんの近所などに空き家がある場合、その所有者に声をかけていただくなど、ご協力をお願いします。

**■空き家情報バンクにも
ご登録をお願いします**

空き家と同様に、空き地についても「空き地情報バンク制度」を設けています。空き地を所有している人で、都市住民に貸し出すことが可能な人は、本庁（別館）・農業振興課へご連絡をお願いします。

**空き家の情報は
ホームページで紹介（予定）**

登録された空き家・空き地の情報については、市のホームページで紹介することになっています。機会があれば、都市住民の方々にもぜひご紹介ください。

空き家の所有者（貸したい人・売りたい人）

①空き家情報の提供

②空き家情報バンク
登録申込書類の送付

③空き家情報バンク
に物件の登録申請

④現地確認

⑤空き家バンク
に登録

⑥空き家情報の発信

⑦物件の問い合わせ・
利用者の登録申込

⑧物件の詳細情報の
紹介

空き家の所有者と利用希望者との連絡調整

当事者間で交渉・契約

空き家の所有者が希望した場合

連絡調整
契約交渉

(社)熊本県宅地建物
取引業協会
天草支部

連絡調整
契約交渉

空き家情報バンク（天草市）

空き家の利用希望者（借りたい人・買いたい人）

※詳細は、本庁（別館）・農業振興課都市農村交流係 ☎ 1111 内線2591へ。

議長に濱 廣昭氏 副議長に野嶋健一氏を選出

副市長に古田勝人氏を選任同意



副議長
野嶋 健一 氏



議長
濱 廣昭 氏

平成20年第3回市議会定例会が6月2日から19日間の日程で開かれ、議長に濱廣昭氏、副議長に野嶋健一氏がそれぞれ選出されました。また、各常任委員会委員や議会運営委員会委員、上天草・宇城水道企業団議会議員が選出されたほか（7ページ左下参照）、有明地区の赤崎・浦和の両小学校を統合する天草市立小・中学校設置条例の一部を改正する条例の制定や、歳入歳出の予算総額にそれぞれ2億286万3千円を追加し、496億7,046万3千円とする平成20年度天草市一般会計補正予算（第1号）など22議案を可決・承認。副市長に古田勝人氏を選任することや、監査委員の選任や教育委員会委員の任命、人権擁護委員の候補者の推薦について同意されました。

なお、本会議の冒頭、宮下重康議員・平山泰司議員・蓮池良正議員に永年勤続議員として全国市議会議長会会長からの表彰状が伝達されたほか、安田市長から感謝状が贈られました（宮下重康議員は同議長会会長からの特別表彰も受けられました）。

可決された議案

- ▼天草市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について
- ▼天草市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ▼天草市立小・中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について——有明地区の赤崎小学校と浦和小学校を統合し、来年4月1日から浦和小学校とするもの。
- ▼天草市文化振興審議会条例を廃止する条例の制定について
- ▼熊本県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約の一部変更について
- ▼熊本県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約の一部変更について
- ▼公有水面埋立免許に関する意見を述べることにについて
- ▼あらたに生じた土地の確認について（4件）
- ▼字の区域の変更について（4件）
- ▼市道路線の廃止及び認定について
- ▼平成20年度天草市一般会計補正予算（第1号）——通信格差是正のためのADSL通信環境整備に対する補助や、天草文化交流館横の広場整備に伴う用地費など、歳入歳出の予算総額にそれぞれ2億286万3千円を追加し、496億7,046万3千円とするもの。
- ▼平成20年度天草市介護保険特別会計補正予算（第1号）

議員提出

承認された議案

- ▼専決処分事項の承認について——天草市税条例の一部を改正する条例
- ▼同——天草市都市計画税条例の一部を改正する条例
- ▼同——天草市国民健康保険税条例の一部を改正する条例

同意された議案

- ▼監査委員の選任について——監査委員に中尾友二氏（本渡町広瀬5番地18）を選任することに同意。
- ▼副市長の選任について——副市長に古田勝人氏（熊本市秋津町秋田3441番地43）を選任することに同意。
- ▼教育委員会委員の任命について（2件）——委員に次の皆さんを任命することに同意。松中美恵子氏（河浦町宮野河内242番地）、江浦むつえ氏（下浦町2358番地1）。
- ▼人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて（4件）——委員に

不採択となった請願

- ▼後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める意見書の提出に関する請願書

報告された事項

- ▼専決処分事項の報告について——和解及び損害賠償の額の決定について
- ▼繰越明許費繰越計算書の報告について——平成19年度天草市一般会計
- ▼同——平成19年度天草市公共下水道事業特別会計
- ▼同——平成19年度天草市漁業集落排水事業特別会計
- ▼繰越計算書の報告について——平成19年度天草市水道事業会計
- ▼株式会社うしぶかの経営状況の報告について
- ▼株式会社リップランドの経営状況の報告について

各常任委員会委員などが選出されました

各常任委員会委員や議会運営委員会委員などが、次のとおり選出されました（敬称略。◎は委員長、○は副委員長）。

■総務企画常任委員会

◎藤崎正博、○古賀源一郎、濱廣昭、中村五木、平山泰司、船辺修、若山敬介、勝木幸生

■市民環境常任委員会

◎脇島義純、○田中茂、北野鋼一、吉川徳澄、大塚基生、平石水穂、野嶋健一

■建設経済常任委員会

◎本田武志、○楠本千秋、池田次人、江浦政巳、宮下重康、赤木武男、中村三千人、蓮池良正

■文教厚生常任委員会

◎鎗光秀孝、○宮下幸一郎、濱崎昭臣、池田裕之、松江雅輝、中尾友二、浜崎義昭

■議会運営委員会

◎大塚基生、○勝木幸生、濱崎昭臣、中村五木、田中茂、中村三千人、船辺修、蓮池良正

※上天草・宇城水道企業団議会議員 脇島義純

【問い合わせ先】本庁・議会事務局 ☎☎1111内線1301

- ▼株式会社くらたけの経営状況の報告について
- ▼株式会社プラスファイブの経営状況の報告について
- ▼有限会社愛夢里の経営状況の報告について
- ▼天草市土地開発公社の経営状況の報告について

- ▼財団法人天草下島北部地域観光振興公社の経営状況の報告について
- ※詳しいことは、本庁・総務課総務法制係 ☎1111内線1214へお尋ねください。

副市長に就任



ふるた かつと
古田 勝人 氏
（熊本市秋津町・63歳）

旧牛深市出身。昭和42年4月に熊本県職員となり、企画開発部開発課長、県立大学事務局長、環境生活部長、総務部長などを歴任。平成16年5月から3年11カ月間、熊本県出納長。



▲牛深ハイヤ節を熱唱する
総合グランプリの石田綾子さん

総合グランプリに大阪市の石田綾子さんが輝く ～牛深ハイヤ節全国大会～

6/21-22
牛 深

6月21・22日、「第8回牛深ハイヤ節全国大会」を牛深総合センターで開催しました。同大会にはジュニア（中学生以下）、青年（高校生～39歳）、壮年（40～59歳）、実年（60～69歳）、高年（70歳以上）の5つの部門に、全国各地から合計101人が出場。各部門ごとに予選と決勝（ジュニアの部は決勝のみ）を行い、優勝者を決定しました。総合グランプリには、高年の部で優勝した大阪市在住の石田綾子さんが輝きました。



▲熱心に意見を交わす参加者（白木区）

地域の悩みを地域づくりのヒントに！ ～高浜地区振興会「井戸端会議」～

6/23～7/11
天 草

6月23日から7月11日まで、高浜地区の8つの自治公民館を会場に井戸端会議が開かれました。これは、地域の悩みなどを語り合い、地域づくりを考えようと高浜地区振興会（松本由一会長）が実施したもの。各会場では、地区住民や振興会役員など約20～30人が集まり、「葬儀時の加勢人への賄いを改善できないか」「老人会を支える若者がほしい」などの意見が出されたほか、高齢者の見守りを行う「一品会」の活動について報告が行われました。



▲おばあちゃんたちに教わりながら
七夕飾りを作る園児たち

七夕飾りづくり楽しいよ！ ～保育園児がお年寄りや中学生と製作～

6/27-7/1
新 和

大多尾保育所の園児24人が、地域の皆さんといっしょに七夕飾りを作りました。

6月27日には、昔ながらの飾りなどを、老人会の皆さん5人の手ほどきを受けながら楽しそうに製作。また、7月1日には、思い思いの願いごとを書いた短冊などを、新和中学校の3年生24人に協力してもらいながら楽しそうに笹に飾り付けました。みんなで作った七夕飾りは、地元の公民館や郵便局などにプレゼントしました。



▲「天草では、ツーリズム的な発想を取り入れて地域通貨に取り組んではどうか」と提案する嵯峨生馬氏

天草の地域振興を図るために！ ～地域通貨講演会～

7/1
五 和

NPO法人五和ささえ愛カンナの会では、一定の地域内などで物やサービスの交換手段として使われる地域通貨を活用し、地域振興を図ろうと7月1日、「地域通貨講演会」を地域交流センターおおくすで開催されました。当日は地域住民など約150人が参加。講演会では、講師のNPO法人アースデイマナー・アソシエーション（東京都）代表・嵯峨生馬氏が、地域通貨の先進事例を紹介したほか、天草ならではの地域通貨の活用策について提案されました。



▲お馬さんレース。「お母さん、がんばれー！」

親子いっしょに楽しいひととき ～親子レクリエーション～

6/8
御 所 浦

御所浦町保育所保護者連絡協議会主催の「親子レクリエーション」が6月8日、御所浦小学校体育館で開催されました。これは、親子の触れ合いを深めることなどを目的に毎年開かれているもので、今年で14回目。当日は、御所浦・御所浦北保育所の園児や保護者など約180人が参加。親子でいっしょに、子どもを背中に乗せて競うお馬さんレースやリズム体操などをしたり、親同士・子ども同士で交流したりして、楽しいひとときを過ごしていました。



▲「全国大会には2回目の出場。優勝を目ざしてがんばります」と語る山下美奈子さん

山下美奈子さんが県代表に！ ～二輪車安全運転熊本県大会～

6/8
河 浦

「第38回二輪車安全運転熊本県大会」が6月8日、菊池郡菊陽町の県運転免許センターで開かれ、河浦町久留の山下美奈子さんが女性クラス(50cc)で優勝しました。この大会では、交通ルールに従った運転の正確さを競う「法規履行走行」と、8の字走行などでの運転姿勢の正しさやタイムを競う「技能走行」を実施し、総合判定により優勝者を決定しました。山下さんは、8月2・3日に三重県鈴鹿市で開催される全国大会に熊本県代表として出場します。



▲生徒自らが製作したおもちゃを使って
園児との交流を図りました

園児との触れ合いで貴重な体験 ～栖本中の生徒が保育園児と交流～

6/10
栖 本

栖本中学校の3年生30人が6月10日、和貴保育園を訪れ、園児57人と交流しました。生徒たちは、この日のために“ダンボール製のパズル”や“発泡トレーを利用した飛行機”などを製作。当日は、これらのおもちゃを使って幼児といっしょに遊んだほか、食事の介助や泣き出す乳児をあやすなど、日ごろできない貴重な体験をしました。生徒たちが作ったおもちゃは、いっしょに遊んでくれたお礼としてプレゼント。園児たちは大変喜んでいました。



▲松永卓・県土木部長に要望書を手渡す
中川竹治・市まちづくり協議会連絡会会長（写真右）

熊本天草幹線道路などの早期実現を！

～県知事と県議会議長に要望書を提出～

7月2日、中川竹治・市まちづくり協議会連絡会会長や安田市長などが県庁を訪問し、熊本天草幹線道路などの早期実現を求める要望書を5万1,447人分の署名を添えて、県知事と県議会議長に提出しました。これは、約3,000人が参加した5月17日の島民集会での大会決議採択などを受けて取り組んだものです。中川会長は「熊本天草幹線道路と第二天草瀬戸大橋の早期実現は島民の願いです。1日も早くお願いします」と要望書などを手渡しました。



▲市職員がBDFを民間のゴミ収集車に給油

環境にやさしい燃料を民間に提供

～BDFモニター事業をスタート～

廃食用油を環境にやさしい軽油代替燃料（BDF）に変換し、市のゴミ収集車などの燃料として使用している市では7月7日、BDFモニター事業をスタートしました。これは、市の委託を受けて本渡地区清掃センターに一般ゴミを搬入している5業者にBDFを提供し、事業拡大に向けた問題点の洗い出しや、BDFの民間への普及を推進するため実施するものです。同日、同センターで出発式を行い、早速、民間のゴミ収集車2台にBDFを給油しました。



▲合併契約書に調印後、握手を交わす
8商工会会長と立会人の安田市長（写真中央）

天草市商工会（仮称）の発足に向けて

～商工会合併契約調印式～

本市の8つの商工会（有明・御所浦・倉岳・栖本・新和・五和・河浦・天草）が7月14日、「天草市商工会合併契約調印式」を市役所で行い、合併時期などを示した合併契約書に調印しました。これを受けて各商工会では、10月に一斉に臨時総会を開き、会員の承認を得て合併を正式に決定。平成21年4月に天草市商工会（仮称）が設立されます。合併後の会員は約1,300人。8商工会は昨年7月に合併協議会を設置し、名称など33項目の協議を行ってきました。



▲やさしく語りかけるように歌やエピソードを披露する
コクーンの水月悠里加さん（写真左）と本田裕子さん（同右）

心に響く癒しの歌などに感動

～社会を明るくする運動・教育力活性化推進大会～

第58回社会を明るくする運動推進大会・天草市教育力活性化推進大会を7月5日、天草市民センターホールで開催しました。この大会では、同運動の作文・標語入賞者表彰や作文発表のほか、桺宇土小学校や新和町子育て実行委員会による事例発表を実施。また、主婦2人組の音楽ユニットcocoönによるコンサートでは、家族への愛や未来への希望など、日常のできごとを題材にした歌やエピソードが披露され、約700人の観客は熱心に聞き入っていました。



▲かわいいタコを釣り上げて喜ぶ子どもたち

観光客の皆さん タコ釣り楽しんで！

7/5
本渡

～観光タコ釣り始まる～

（社）天草宝島観光協会本渡支部などでは、本渡地区のホテルや旅館などに宿泊した観光客を対象に、9月7日まで「天草ほんど観光タコ釣り大会」を実施しています。7月7日には同大会をPRするため、釣りライターや報道関係者を招いてタコ釣りが行われました。参加者46人は、早朝5時30分に佐伊津漁港を出発。約2kmの沖合いでマダコやイイダコを次々に釣り上げていました。同大会についての詳細は、天草ほんど観光旅館ホテル組合☎☎5368へ。



▲九州代表として西日本選手権大会に出場する
「牛深リトルリーグ」の皆さん

目ざせ西日本一！“牛深リトルリーグ”

7/5・6
牛深

～リトルリーグ西日本選手権大会に出場～

牛深・河浦・天草地区の小学6年生と中学1年生をメンバーとする硬式野球チーム“牛深リトルリーグ”が、7月5・6日に菊池郡大津町で開かれた「全国選抜野球大会兼西日本選手権大会九州予選」で準優勝し、九州代表として西日本大会に出場します。主将の園田篤さん（河浦中1年）は、「チーム一丸となって優勝を目指します」と力強く抱負を語っていました。西日本大会は8月9・10日に広島市で開催されます。皆さんのご声援をお願いします。



▲投入式に参加した“タコつぼオーナー”の皆さん

タコがいっぱい入りますように！

7/6
有明

～タコつぼの投入式～

タコつぼのオーナーを募集していた大浦地区振興会が7月6日、応募者420人の中から抽選で決定したオーナー50人や家族を招いて、タコつぼの投入式を行いました。今回初企画された“タコつぼオーナー制度”は、1口5,000円でタコつぼ2個を買い、地元の漁師に漁を委託するもので、とれたタコはすべてオーナーに宅配されます。オーナーの皆さんは、大浦漁港でタコつぼに名前などを書き込んだ後、船で投入場所へ移動し、投入作業を見守りました。



▲まちづくりに生かすため
初めて開催された「棚底地区歴史講座」

郷土の良さを知り、まちづくりに生かす

7/10
倉岳

～棚底地区歴史講座～

棚底地区振興会主催の「棚底地区歴史講座」が7月10日、倉岳多目的研修集会施設で開催され、地区住民など約40人が参加しました。同講座では、講師の高田尊徳氏（県文化財保護指導委員）が、同地区の文化財や“棚底”の地名の由来などについて説明されました。同振興会では、天草で最も古い年号の古塔群や棚底城跡、石垣群など、多くの地域資源を最大限に生かしたまちづくりに取り組む予定。今後、観光案内人の育成などに力を入れていけます。

みんなの 広場



市長随筆



天草更紗

今年は例年より早く梅雨が明け、本格的な夏の到来となりました。市民の皆さんには、健康でこの夏をお過ごしただきたいと思っています。

さて、私は7月上旬、九州地区漁港漁場大会出席のため、沖縄に出張しました。沖縄はすでに真夏で、現地のスタッフの皆さんは、「かりゆしウエア」という軽装で私たちを迎えてくれました。

「かりゆしウエア」は、アロハシャツに似たもので、沖縄では官公署や企業のクールビズ用の上着として定着しています。また、観光みやげ品としても大変な人気です。

わが天草を振り返ってみます。

すと、「天草更紗」というすばらしい染物があります。私は常々、この「天草更紗」を何とか活用できないかと思っていましたので、地元で取り組まれている人に相談し、早速、クールビズ用の上着を作っていたできました。

「天草更紗」は、ネクタイやハンカチなどにしても、魅力ある天草の観光みやげ品になると考えています。天草の工芸品として、新たな産業づくりにつながるよう、今年の夏は「天草更紗」の上着を着て、PRしていきたいと思っています。

天草市長 安田 公寛



鶴戸 稔里 さん（倉岳町棚底・21歳）

短大を卒業後、今年4月から祖父が創設した幼稚園に勤務。5歳児の担任となり、一喜一憂しながら園生活を送っています。子どもたちの笑顔がたくさん見られるよう、精一杯がんばります。趣味はバスケットボール。仕事に慣れ、時間に余裕ができれば、高校時代の先輩たちと汗を流したいと思っています。



島田 幸廣 さん（有明町上津浦・86歳）

—— 毎日の楽しみは？
現在、約1haの田んぼに米を栽培していますが、日々成長する稲の生育状況



を見るのが1番の楽しみです。また、愛好会の仲間とグラウンドゴルフをにぎやかにすることも楽しみの一つですね。

—— 健康の秘訣は？

早寝・早起きと、毎日体を動かすことを心がけています。また、年間を通じて、自宅近くにある通学路周辺の草払いや農業などをして汗を流すことも、健康の秘訣かもしれませんね。



元気な声で“火の用心”を宣誓！

火の用心！ 火遊びは絶対しません

一町田保育所

河浦町の一町田保育所（平田静代所長・全園児43人）では、明るく元気な気風を養い、防火に関する知識や関心を高め、火災予防に努めることを目的に、4・5歳児を対象とする「ちびっ子消防クラブ」を、平成9年に結成しました。

6月25日、平成20年度の同クラブ入部式を実施し、21人の園児が入部しました。式では、部員点呼の後、委員長の野田慎一郎さんと副委員長の佐伯桃香ちゃん・松浦幸作くんが「火の用心を約束します。火遊びは絶対しません」などと元気な声で宣誓。その後、中央消防署河浦分署の柳良寛・分署長から手作りの竹製水鉄砲をプレゼントされ、園児たちは大喜びしていました。

規則正しい 生活のリズムを大切に

めぐみ保育園

めぐみ保育園（金子和生園長・全園児72人・南町）では、子どもたちが心身ともに健全に育つよう、規則正しい生活のリズムを大切にしています。その取り組みの一つとして、生活の基本である「早寝・早起き・朝ご飯・週間やノートレビデー」などを計画。家庭で

も実践していただいており、子どもたちも意欲的に取り組んでいます。

また、たくましい心と身体づくりを目ざして、夏はプールでの水遊びや戸外遊び、冬は山登りやマラソンなどを実施。そのほか、7月に「ゆうすずみ会」、9月に親子でおもちやを作っているしょに遊ぶ「お楽しみ会」などを行いながら、親子の触れ合いを深めています。



早寝・早起き・朝ご飯を実践し、いつも元気いっぱい！



何にでも“やる気いっぱい！”の鬼池小学校の児童の皆さん

仲よく！楽しく、生き生きと

鬼池小学校

天神山から吹き抜ける薫風に包まれ、五和地区の鬼池小学校（富崎剛章校長・全校児童41人）の児童たちは、“やる気いっぱい！”の教職員9人とともに、“仲よく！楽しく、生き生きと”毎日の学校生活を送っています。「思いやりのある鬼池っ子」「自ら学ぶ鬼池っ子」「よく遊びよく食べる鬼池っ子」を目ざし、保護者や地域の皆さんといっしょに、児童の姿に教育の成果が表れる「共育」の推進に努力しています。本校で学び、遊ぶ41人の鬼池っ子の“やる気いっぱい！元気なあいさつと明るい返事”が、地域に涼風を注ぎ、子どもが元気、保護者も元気、地域も元気な鬼池になることを願っています。

ぼくのわたしの学校生活 自慢

愛あふれる 学校づくりを目ざして

天草養護学校

本渡地区・本町にある天草養護学校（米村友子校長・全校生徒49人）では、「かがやく子ども・かがやく学校・かがやく地域」を合い言葉に、『愛あふれる学校づくり』を目ざすとともに、天草地域における特別支援教育のセンター的機能を果たすべく、各種

教育活動に取り組んでいます。本校には太鼓クラブがあり、和太鼓が好きな小学部から高等部までの生徒16人が所属。週3回の練習に励んでいます。昨年は、空の日フェスタや白い雲の会の映画上映会などに出演。元気いっぱい太鼓演奏を披露し、多くの人に喜んでいただきました。これから力強い太鼓の響きをお届けされるよう、クラブ員一同、心を一つにしてがんばります。



元気いっぱいの太鼓クラブの皆さん

煌めく人々たち

「シバや自然薯、心を込めて栽培したい」

柳田 三郎 さん（天草町福連木・76歳）



家庭の神棚に捧げるサカキや、仏壇に供えるシキミなど（呼称・シバ）を、30年以上前から栽培している。きっかけは、下刈りをしていたときに見つけたシバを、売ることができないかと思つたこと。現在は、自宅周辺の30aほどの畑に4種・約500本を植栽。毎日、草刈りやせん定作業に汗を流す。長年、地元の人無販売所などに出荷していたが、平成11年に農林水産物直売所「まごころ市場」が福連木地区にオープンしたのを契機に、出荷先を移した。

柳田さんがつくるシバは直売所の人気商品のひとつとなっており、天草島内の各地から買い求めに來られる。「お盆とお正月には、注文書を作成してお客さんの対応をするほどです」「柳田さんはシバのおじさんへの愛称で親しまれています」と店員さん。直売所に出荷するようになって、お客さんと直接、話をする機会が増えた。「『柳田さんのシバは、きれいで安いです』と言われるとやりがいを感じる」と話す。今年4月からは、自然薯の栽培にも挑戦している。「地域の活性化を図るため、特産物をつくりたいと5年ほど前から考えていたところ、地元の人から福連木に自生している自然薯の実をもらった。これをうまく栽培すれば特産物になり得るのではと思った。収穫までに3年ほどかかるが、少しずつでも前進したい」と語る。

「体力が続く限り、心を込めてシバや自然薯を栽培していきたい」。柳田さんの地道な努力と挑戦は続く。



▲かくはん作業に励む
土着菌グループのメンバー

宮地岳地区振興会（龍石昭好会長）

土着菌を活用したまちづくり



本渡・宮地岳地区振興会では、無農薬野菜の生産・販売などを通して地域の活性化を図ろうと、昨年7月から土着菌づくりに取り組んでいます。土着菌とは、米ぬかと黒砂糖を混ぜ合わせたものに、土の中に生息する細菌（糸状菌）を加えて発酵させたものです。これを肥料として活用すること、農薬を使わずに農産物を育てることが出来ます。同振興会では、土着菌づくりの先進地である鹿児島県鹿屋市・柳谷集落の視察研修を2回実施した後、昨年7月に土着菌グループ（24人）を結成。土着菌ができるまでに約1カ月半かかりますが、毎日交替でかくはん作業を行い、現在5回目の土着菌づくりを実施中です。できあがった土

ハッピーバースデー 1歳になります



池田 拓登 くん

五和町城河原三丁目
平成19年8月19日生
父・修市さん 母・久美さん

車や音楽が好きで、食いしん坊。みんな、これからもヨロシクね！



二ノ宮 有海 ちゃん

天草町高浜南
平成19年8月7日生
父・重人さん 母・千奈美さん

2人の兄ちゃんと遊ぶのが大好きな私です。



大塚 巧真 くん

川原町
平成19年8月7日生
父・英治さん 母・ひとみさん

開斗兄ちゃんに負けないぞ！みんな大好き♡



田中 勇真 くん

今釜町
平成19年8月8日生
父・薫さん 母・ひとみさん

兄ちゃん、もうすぐ歩けるようになるからいっぱい遊んでね♡



原田 颯我 くん

亀場町亀川
平成19年8月12日生
父・公也さん 母・美栄さん

みんなのおかげで毎日楽しいです。これからもよろしくね！



橋口 優叶 くん

五和町手野一丁目
平成19年8月6日生
父・順一さん 母・恵美子さん

いつも、みんなに可愛いがってもらって幸せいっぱいです♡

9月で満1歳になるお子さんを募集します！

●応募期限＝8月11日(月)まで（必着）。

●応募方法＝写真裏にお子さんの住所、氏名（ふりがな）、生年月日、性別、電話番号、コメント（30字以内）、保護者名（父・母）を記入し、〒

863-8631（住所記載不要）天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は6人まで（応募者多数の場合は抽選）とし、応募写真は返却しません。



牛深市民病院
院長 秋山 泰廣

私は、今年4月に院長に就任しました秋山と申します。牛深市民病院は、牛

深の中心市街地の西側、風光明媚な東シナ海を臨む丘の上にあります。採炭企業の診療所として開設され、昭和44年に牛深市民病院と改称、平成14年3月に現在地に新築移転しました。

病院局だより

牛深市民病院

入院施設として、一般病床105床と療養病床45床を有し、診療科は内科、外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科の7科を設置しています。このほか、訪問看護ステーションやリハビリセンター、人工透析部門があり、また、健康診断や人間ドックなどの保健活動も行うなど、地域に必要とされる医療を担っています。

現在、内科医2人、外科医3人、整形外科医1人、小児科医1人という体制で診療に当たっていますが、昨今の医師不足などの問題もあり、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科は、非常勤医師による外来診療のみを行っています。その中で、産科診療においては、天草中央総合病院と緊密な連携を図り、週2回の外来診療を行うなど皆さんに少しでも安心していただけるよう努めています。当院は、真心と思いやりの気持ちで大切に、市民の皆様の信頼に応え、安心して医療を受けていただくことを目標としています。このため、近隣の各医療施設などとの連携と機能分担の推進に努めるほか、今後は、医師をはじめスタッフの充実と職員教育などに全力を尽くしますので、温かいご支援をお願いいたします。

【編集発行】

熊本県天草市役所
総務部秘書課広報広聴係
〒863-8631 天草市東浜町8番1号
TEL 0969-23-1111
FAX 0969-22-7016
URL <http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/>
E-mail hisyoka@city.amakusa.lg.jp



北京五輪・水泳競技に出場する北島選手の指導者・平井コーチは、一貫して「否定語を使わない」「やっちゃいけない」「これはダメ」ではなく、「こうしようか」「このやり方はどう思う」と『考えさせる発言をする』とのこと。私の家庭は否定語が中心。皆さんは？【空】

夏バテには、強壮作用がある「すっぽん」がいいとラジオで言っていました。私も1回だけ食べたことがあり、おいしかったように記憶しています。元気が出て2次会で「すっぽんぽん」にはなりませんでした。かなりの効果で芸人「亀太郎」に変身しました。【凡】

先日、出張先からの帰り道、エアコンが壊れて利かなくなり、しばらく窓を開けて走行。街の風はアスファルトの反射熱で非常に熱い人工的な風。天草の海岸線来ると涼しい風が入り自然のすごさを実感。でも、エアコンが利かないと本当に困りますよねえ。【走】

わが家の戸袋を住み家にしていくコウモリ。先日、勇気を振りしぼって追い出し、もう来ないように対策を講じたのですが。よほど住みごちがいいのか、私の対策を突破し、また住みついてしまいました。次の対策を考えねば。そしてまた追い出す作業が…。【松】



レンズの奥に見える
宝島のキャンパス



干潮時に歩いて渡れる無人島“**亀島**” かめしま Vol.30 五和町御領

若宮公園海水浴場から約400m離れた沖合いに浮かぶ、周囲約1.5kmの無人島「亀島」。干潮時には、同海水浴場から歩いて渡ることができます。この島にはキャンプ場やバンガロー、ログハウスがあるほか、島周辺はシーカヤックの乗船体験コースとなっており、夏には多くの家族連れなどでにぎわいます。今年の夏は、亀島でキャンプや釣り、海水浴、シーカヤックなどを思う存分、楽しんでみませんか。



「**宮崎石棺墓群**」(倉岳町棚底)

棚底湾に面した標高29mほどの丘陵の頂上にある「宮崎石棺墓群」。板石で作られた箱式石棺22基が残っており、県内にある箱式石棺墓群の中では最大の数を誇ります。



▲宮崎石棺墓群にある
板石で作られた箱式石棺

宮崎石棺墓群は、弥生時代末期から古墳時代初期にかけて形成されました。鉄剣や弥生式土器、鉄製釣針などの副葬品が出土しており、当時、八代海を中心に活躍した「海の民」の墓域であると考えられています。

天草には、下浦町や深海町など八代海沿岸の各地に石棺墓群が残っていますが、中でも宮崎石棺墓群は多数の石棺が良好な状態で残存しており、地域の歴史を知るうえで貴重な史跡として、市文化財に指定しています。